

Vol.1
2005 spring

kore kara

いっしょに描く、まちのこれから、暮らしのこれから



特集：人気の散歩道を歩こう！

[people × people]

土曜日の朝は、大地でいっしょに汗をかこう！

[まちリポ]

さいたま新都心は「人と環境にやさしいまち」

特集：人気の散歩道を歩こう！



愛される道には物語がありました。

市民ならずとも一度は訪れたい定番の散歩道を、季節の移り変わりを感じながら歩いてみませんか。古い歴史を誇る「氷川参道」から、桜で有名な「大宮公園」を経て、緑豊かな文化の薫り高い「盆栽村」へ。さいたま市では、この大切な空間を守り育てるまちづくりを進めています。

氷川参道

お祭りや行事ではない
普段着の参道で新しい発見

さいたま新都心のにぎわいを背に、中山道を大宮駅方向に歩くと、やがて、行く者の足取りをその奥へと誘う、一直線の緑あふれる道に出合います。それが、二ノ鳥居から大宮氷川神社まで約2キロメートルにわたって続く氷川参道です。

風格あるケヤキ並木を少し歩いていくと、途中から歩道が整備されて、ゆったりと歩きやすくなります。実はこれ、参道の本木を守り、安全に歩ける道にしているという活動している市民団体「氷川の杜」の取り組みによるまちづくり推進協議会による取り組みです。

とさいたま市が、計画段階から協働で取り組んで実現できた道なのです。段差や柵を設けずに、視覚的に分離するだけで、わずか6メートルあまりの道幅に歩道の空間を確保しました。

「今回はあくまで暫定です。将来的には歩行者専用道路にして、次代に誇れる安全で快適な道にしたい」と語るのは、協議会員であり、参道で遊び育った辻益行さん。西区から協議会に参加している池田妙子さんは「車を避けるために、樹木の根元を踏み固めて歩いていた人が減って、参道の木々にもやさしい道になりました」と話してくれました。「カフェや手づくりの店などを散策しな



がらたどり着いた「平成ひろば」では、散歩中にひと息入れる人や、木陰でおしゃべりをする人がいて、人々の憩いの場として利用されています。

そして二ノ鳥居から三ノ鳥居辺りは寄り道エリア。市立博物館には、中山道の大宮宿の模型があり、昔のまち並みを見て、歴史に思いをはせることができます。

竹林の奥にたたずむ「氷川の杜文化館」には、能舞台や展示ギャラリーがあり、中庭の日本庭園を眺めれば、静寂な和の世界をきくと感じるはず。ところで、二ノ鳥居は明治神宮から移築された、日本最大の「木」の鳥居だということ、ご存じでしたか？



「遠方からも人々が訪れ、歩きたくなる道にしたいですね」と話す『氷川の杜』のまちづくり推進協議会（右から）辻益行さん、池田妙子さんと参道を担当したさいたま市都市局大宮駅周辺計画管理課の中野英明さん。



歩車分離された氷川参道。四季折々の草花やお気に入りのスポットを探しながら、ゆったりと歩けるようになりました。



(右上) 朱色が鮮やかな大宮氷川神社の楼門。一步入るとそこは神域。休日には多くの参拝者が訪れる。
 (右下) 大宮公園は、ソメイヨシノを中心に約1,200本の桜が咲き誇る県内屈指の桜の名所。シーズンには十数万人の花見客でにぎわう。
 (左) 「氷川の社文化館」の1階ロビーから中庭の日本庭園に出られる。散歩途中で立ち寄るにはピッタリのお休み処。

大宮公園

安らぎと開放感にあふれる空間

そして武蔵国の宮・大宮氷川神社へ。ここは、日本でも指折りの古社で、平安前期に朝廷が編さんした「延喜式神名帳」に、全国の著名な神社とともに記載されている格式の高い神社です。

氷川神社の名を有する神社は数多くありますが、その中心がここ大宮氷川神社なのです。「大宮」の地名もこの神社が「大いなる宮居」であったことに由来しています。

運がよければ、池の主である「亀」の陸散歩にも出会えたりします。

太陽を浴びて心も体もリフレッシュ

境内を抜けると、大宮公園が広がります。園内には、約1200本の桜や日本庭園のほかに、硬式野球場やサッカー場、水泳場、体育館、弓道場、小動物園、児童遊園地などさまざまな施設があります。太陽の光を浴びながら池の周りを歩くと、心身ともにすっきり、リフレッシュできます。今年からJリーグ1部に昇格した、大宮アルディージャのホームスタジアムでも

ある「大宮公園サッカー場」は、東京オリンピックの会場として造られた日本初のサッカー専用スタジアムです。サッカーの神様ペレやマラドーナも、ここでプレーしたそうです。

一方で、大宮公園は文化人にも好まれ、森鷗外や夏目漱石、正岡子規など二流の文士も訪れました。

「連なりて残る雪ある木の間かな」

この句は昭和8年冬、「武蔵野探勝会」と銘打って吟行の旅をしていた高浜虚子「大宮公園を訪れたときに詠んだもの」です。



参道の端にひっそりと置かれている丁石。「丁」とは昔の距離の単位で、1丁はおおよそ109m。これは復元したもので、原石は市立博物館で見ることができる。

盆栽村

もうひとつの「楽天」ものがたり

大宮公園を抜けて少し歩くと、大宮で生まれ育った日本近代漫画の先駆者・北沢楽天の作品や遺品を展示した「漫画会館」があります。

「コミック」という言葉を最初に「漫画」と和訳したのは楽天だったそうです。彼の時事漫画や風刺画には、明治から昭和にわたる庶民の生活や世相をユーモラスに垣間見ることが出来ます。

伝統の中に今を見る「文化」のまち

大宮公園の北、10万坪のエリアにある盆栽村。関東大震災で被害を受けた数軒の盆栽業者が、盆栽の栽培に適した

土地を求めて、東京からこの地に移住したのが村の始まりです。

毎年5月上旬には「大盆栽まつり」が開催され、盆栽のメッカとして、海外からも多くの愛好家が訪れます。

「盆栽四季の家」でひと休みしたあとは、ぜひ盆栽園をまわってみてはいかがですか。どの園も無料で拝観することができます。見るだけでなく、もちろん買うこともでき、最近では若い女性にも人気があるそうです。

都心のオアシスともいえる今回の散歩道。さらに魅力ある空間にするため、これからも市民の皆さんと協働でまちづくりを進めます。



時間・空間と山水の景を表現し、自然にある姿以上の美しさを求めていく日本の伝統的な芸術「盆栽」を通して、自分の中の新境地を開いてみては？



こんなかわいらしい「盆栽」もあり、数千円程度から買うことができます。ただし、小さくても値が張るものがあり、値段と大きさは無関係なのでご注意ください。



「最近では女性や若い人に盆栽体験教室が人気です。ぜひ一度、盆栽村を訪れてみてください」と話す盆栽園「清香園」の山田香織さん。



people x people

peopleXpeopleコーナーは、まちづくり活動の情報交換の場です。このコーナーへの掲載を希望される団体または個人の方は、さいたま市都市総務課(TEL: 829-1394)までお問い合わせください。

土曜日の朝は、大地でいっしょに汗をかこう！

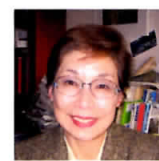
見沼田圃で米作りに挑戦している「見沼代保全倶楽部」からのメッセージ

さいたま市の自然資源、その代表といえば、美しい水田や畑、植木畑が広がる「見沼田圃」。全体面積、約1260ヘクタールのほとんどがさいたま市に属し、市の面積の約7%を占めています。ところが今、農地の減少・荒地化が急速に進んでいるというのです。「このままでは田圃も大地の水も消えてしまう」との危機感から、米作りを通じて見沼の自然を守ろうと呼びかけているのが「見沼代保全倶楽部」です。活動を続ける市民グループの皆さんからの熱いメッセージをお届けします。

田圃地帯の緑と水を守りたい

田圃ってどうやってつくるの？

田圃がなくなれば農業用水は不要になって、農地や大地を潤してきた水を失います。そうなればそこに生息していた生き物たちもいなくなり、私たちの癒しの場も失われます。見沼代用水はさいたま市を潤す水でもあり、この田圃と水を後世に残したい。そのために活動しています。



「おいしい空気と土と生き物たちに触れてみたくなったら、いつでもご連絡ください。どなたでも大歓迎。できれば作業に参加してほしい。楽しみが倍増です。」
(代表・藤原悌子さん・浦和区在住)



「農業者になるのが夢でした。定年で時間の余裕ができ、つつい田圃に出向いてしまおう。やるならおいしい米をたくさん作りたいんです」
(緑区在住・稲垣武俊さん)

何もかも忘れて
草刈りをする時間が楽しい

活動は毎週土曜日。夏は朝8時、春・秋は9時集合。畔道にずらりと車が並び光景は、いかにも市民活動という感じです。
全体の2割の方が女性で、仕事や家事のストレスを発散できる場にもなっています。



「年寄りを抱えていると、気分が運動不足になりがち。土曜の田圃作業は体もほぐれて、いい気分転換になります。草と土の匂いが体中に行きわたってホッとする。また、明日からも頑張れそう！、なんてネ」
(浦和区在住・豊田あきこさん)

見沼田圃の再生を目的に、はじめは二反七畝(27アール)の土地でスタート。農地法により一般市民の耕作は認められないため、援農の形で進め、昨年は3つの田圃(七反に拡大)で無農薬を目指しつつ、有機肥料栽培の米作りに挑戦しています。

メンバーは約50人。みんな都市住民で農業の経験はまったくありません。しかもほとんど初対面。それでも仲間になっていくから不思議です。長く休耕した田圃では水がなかなかたまってくれない、田植えができないというアクシデントにも遭遇。

「埼玉クボタ」の皆さんが最新トラクターで応援に駆けつけてくれたこともありました。すべて初めての体験で、その都度途方に暮れますが、笑いが絶えたことはありません。

やっと自然のサイクルが
わかってきた

6月に田植えをすると、7月には立派な水田に。カモが泳ぎ、ツバメが飛来し、ヨシキリのさえずりもにぎやか。土と水と太陽が生き物を育むことをメンバーは実感しています。そしてトンボが飛び交うなか、小さな白い米の花が咲くと、ひと月もすれば収穫の時期。



「コンバインを初めて自分で動かした時は、うれしかったですね。自分でお米を収穫する喜びを体験し、日本のアイデンティティはやっぱり米作りにあるんだと気づかされたと思います」
(緑区在住・岡辺重雄さん)

好きなことでまちづくりに参加できたら、こんなに楽しいことはありません。皆さんも探してみませんか。

「見沼代保全倶楽部」では賛助会員を募集しています。
詳しくは、NPO法人「水のフォーラム」事務局(豊田・藤原さん)まで。
TEL: 834-0187
http://www.w-forum.jp
※見沼代保全倶楽部は藤原さんが理事長を務めるNPO法人「水のフォーラム」の会員が幹事会員となって運営しています。



「peopleXpeople」は、人と人が出会う交差点。さいたま市でまちづくりに取り組んでいる人々からのメッセージを伝えるページです。「まちづくりに関わることは、自分の暮らしに新しい発見や充足感をもたらすこと」と気づかせてくれる人々が登場します。



まちリポ from Saitama Shin-Toshin

さいたま新都心は 「人と環境にやさしいまち」

市民リポーターがまちづくりの現場を見に行く「まちリポ」。今回訪れたのは、全国で屈指のインフラ設備を誇る「さいたま新都心」です。2年ほど前からさいたま市に暮らす柴原早苗さんがその秘密に迫ります。

柴原早苗さん
横浜市生まれ。フリーランス通訳翻訳者、英語講師。2002年までの4年間ロンドンのBBCワールドにて放送通訳業に従事。帰国後さいたま市に転入。現在、夫、3歳と1歳のお子様の4人家族。「さいたま市は交通アクセスが良く、緑も多いので、仕事と子育ての両面で太い気に入っています」。

地下に巨大プールを発見？

新都心に行くが高層ビルばかりをつい見上げてしまいますが、実は地下には意外な発見があるのです。

いつも車で走り抜ける西大通り。その地下深くに4万トンもの雨水を一時的にためておける大きな空間があるのをご存じですか？
幅21メートル、高さ17メートル、長さなんと200メートル！何のためにあるのでしょうか？

ここは「上落合雨水調整池」。雨が降ったあと、川の水量が急増して洪水が起こるのを防ぐためにつくられた調整池です。ためた雨水は水量に応じて調整し、「鴻沼川」へ放流されます。ちなみに雨水の一部は水源の有効活用として、歩道のせせらぎに流れているそうです。

土地を有効活用するため調整池は地下につくられたそうですが、私



調整池:車や人の行き交う道路の地下深くにこんな空間が。想像以上に広く、臭いも気にならない。

たちがふだん目にしない所で災害に強いまちが整備されていたのですね。

「電線のない美しい景観」のナゾ

ロンドンに住んでいたとき、「日本も欧米のように電線をなくせば景観がよくなるのでは」と思っていました。そんなスッキリした景観を実現したのが新都心です。

ここには電柱も電線もありません。それを支えているのが「共同溝」です。共同溝は文字どおり共同のトンネルのようなもので、電線・電話線・水道管などがまとめて埋設されています。つまり、「道路の下のライフレイン専用道」ともいえます。

全長約3キロメートルにわたって整備された共同溝内部には、色とりどりの線や管が張り巡らされています。その複雑さから、工事には時間がかかります。しかし、いったん完



共同溝:内部には重要な通信ケーブルなどもあるため、24時間体制で集中管理されている。そのため、普段、見学することはできない。

成してしまえば、「道路の掘り返しが少なくなる」「維持管理がしやすい」「景観がよくなる」など、長期的なメリットの方が大きいようです。

たくさんの「バリアフリー」

全国に先駆けて「バリアフリー都市宣言」をしたさいたま新都心。歩行者デッキと車道が完全に分離されているため、ゆったりと歩けます。

初めて入った「ふれあいプラザ」。ここでは、新都心を訪れるだれもが安心して過ごせるよう、ボランティアの皆さんが移動介助を中心としたまちの案内活動などを行っています。「ふれあいプラザ」ではグルメマップならぬ「バリアフリーガイドマップ」も配布しています。「盲導犬同伴は？」「車いすは何台まで？」「メニューの読み上げは可能？」「きざみ食は？」などといった情報が飲食店ごとに掲

載されています。

約80人のボランティアのうち、3割の方は外国語が話せるそうです。外国人にとってもやさしいまちだとわかりました。

子育てママへの支援も

そして、私のような子育て中の母親にもうれしい設備があります。「ふれあいプラザ」の授乳室には、ミルクや離乳食用にポットとレンジが常備されているのです。ベビーカーの貸し出しも意外に知られていないかもしれません。もっと多くのお母さん方に利用していただきたいですね。

さらに、「さいたまスーパーアリーナ」には、災害に備えて7千人分の食糧と生活必需品が3日分備蓄されているそうです。わが家の子どもはまだ小さいので、個人的にはオムツの備えがいちばん気になりましたが、きち



備蓄倉庫:7,000人もの生活必需品が保管されている。下着(大人用と子ども用)、タオル、ほ乳瓶、生理用品、オムツなどが並ぶ。



小学生が作成に参加したモニュメント:タイトルは「ほしにすむ」。参加した小学生の名前が内側に刻まれている。



ふれあいプラザ:ここには車いすや音声誘導端末の貸し出し、点字プリンター、授乳室などがある。(けやきひろば1階 TEL: 600-3192)

まちづくりセミナー



「まちづくりセミナー」は、市民の皆さんが身近なまちづくりを考えるための基礎的な勉強会です。住民参加のまちづくりに対する意識を高め、地域のまちづくりリーダーを育成することが目的です。

これまで2回、3回と参加される方もいるほど人気があり、初めて参加された方はもちろんのこと、地元でまちづくりに取り組んでいる方々

の交流の場としてもお役に立っています。

まだ、少数ではありますが、当セミナーへの参加をきっかけに、NPOなどの活動や行政計画に参画するセミナー修了者も誕生しています。今回は、最近2年間のセミナーの内容についてご紹介します。

平成15年度

初級編、中級編の2コース（共に各4回の連続講座）を開催しました。

【初級編】 まち歩きやまちづくり活動の視察、ワークショップの体験を通して、まちづくりの大切さを楽しく学び、視察の成果をグループごとに工夫を凝らして発表していただきました。

【中級編】 初級編を一步進め、演習課題の具体的な地区について、グループごとに問題の抽出とその解決策に取り組んでいただきました。開催日以外にも自主的に集まるほどの意欲的な取り組みとなり、白熱した議論も見られ、さすが中級!といった雰囲気でした。

平成16年度

①まちづくりの進め方、②安全・安心まちづくり、③交通とまちづくり、④景観とまちづくり、の4講座を用意し、基礎的知識の修得と実践を目的として、専門家による講義とワークショップ形式で開催しました。

まちづくりの計画から実現までのさまざまな手法を、事例などを交えながら楽しく学び、質疑応答も活発に行われ、熱気あふれる勉強会となりました。

平成17年度以降も引き続きセミナーを開催いたしますので、ご期待ください。詳しくは、整備企画課(TEL: 829-1449)へ。

都市局まちづくり広報誌「korekara」の発刊にあたって

さいたま市都市局長 伊藤 秀夫

私たち都市局は、さいたま市総合振興計画「さいたま希望のまちプラン」の実現に向けて、まちづくり分野における各種計画の策定や市街地開発事業の推進などに取り組んでいます。

限られた財源を有効に活用し、高度な都市機能と豊かな自然、地域文化を生かし、「だれもが住んでよかった、住み続けたいと思える都市」を実現していくためには、市民の皆様の積極的な参加のもと、「市民と行政の協働によるまちづくり」を推進する必要があります。

そこで、協働によるまちづくりの「きっかけ」づくりと市民の皆様との「情報共有」を目指すために、このたび、都市局まちづくり広報誌「korekara」（「これから」と読みます）を発刊します。タイトル「korekara」には、「皆様とともにこれからのまちづくりをいっしょに考えていく」という私たちの思いを込めました。

この広報誌を市民の皆様とともに育て、協働によるまちづくりをより一層推進してまいりますので、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



KOREKARA 編集後記

- 都市局まちづくり広報誌「korekara」、いかがでしたでしょうか。皆さんのご意見・ご感想をお寄せください。
- まちに暮らす私たちは、だれもがまちとかかわりをもって。私たちのまちを知り、まちづくりに関心をもつ人が一人でも増えるよう、この広報誌を通じて、まちづくり活動や都市局の情報を伝えていきます。
- 「korekara」の発刊にあたり、数多くの方々にご協力をいただきました。末筆ながらこの場をお借りして心よりお礼申し上げます。（四方田・篠崎・古谷）

編集：都市局参加型まちづくり推進会議
発行：さいたま市 都市局 都市計画部 都市総務課
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤6-4-4
TEL：048-829-1394 FAX：048-829-1979
E-mail：toshi-somu@city.saitama.lg.jp

voice of Saitama City

we are 都市局

浦和駅東口駅前が変わります



※この2つのCGパースは整備イメージです。

浦和駅東口駅前の約2.8ヘクタールの区域に計画している再開発ビル・駅前交通広場・公共地下駐車場・道路などの工事が平成19年度末の完成を目指して着工されます。

再開発ビルは、地下4階・地上10階建てで、地下1階から地上5階が商業施設でテナントとしてパルコが店舗、6・7階にはシネマコンプレックスや健康・スポーツ、リラクゼーション施設が、8階から10階に中央図書館、コミュニティ施設、市民活動支援複合施設などの公益施設が設置されます。このほか地下2階から地下4階には駐車場が整備されます。

また、再開発事業と併行して浦和駅の前後約1.3キロメートルの区

間で鉄道を高架化する工事が進められています。

この工事では都市計画道路「田島・大牧線」の整備をはじめ、駅前に幅員25メートルの東西連絡通路の新設のほか数カ所の交差道路が整備され、鉄道で分断されている東西市街地が一体化されます。

さらに、旅客ホームを新設し、池袋・新宿方面行きの中距離電車を浦和駅に停車させるための工事も行われます。

詳しくは、浦和駅東口開発課(TEL: 882-8269)
鉄道高架整備課(TEL: 827-1232)へ。

市民ボランティアが緑地の保全活動に参加



さいたま市では良好な自然環境を確保するため、「みどりの条例」を制定し、緑の保全および緑化の推進を図っています。

条例で指定している緑地のうち、市民の皆さんが自由に利用することのできる緑地（自然緑地）など18カ所では、市と市民ボランティアとの協働により、保全活動が行われています。

市民ボランティアのひとつ「さいたま市みどり愛護会」は、ごみ拾い、枝打ち、下草刈り、落ち葉かきなどを行っています。下草刈りとは、生き

物と共存できる明るい雑木林にしていけるために、保存すべき樹木や野草をいっしょに手作業で選別することです。

同会は、主に近隣にお住まいの方で構成され、8つの支部に分かれて活動しています。市のイベントへの参加や会員相互の交流と知識の向上を目指した行事なども行っています。

詳しくは、公園みどり課(TEL: 829-1423)へ。



遠回りをしてでも通りたい並木道

豊かな緑に囲まれた園内では、散策したり、絵を描いたり、スポーツをしたり、思い思いに時間を過ごしています。週に一度、習い事の帰りに必ずここを通るといふご婦人に出会いました。

「いつも遠回りをしてこの並木道を歩いています。季節ごとに花が咲き、木々が表情を変えるので楽しいですよ」

これ、何の木？

子どもが思いっきり走り回れる広場があり、親子で行くにもピッタリの場所です。園内にある30本の樹木の前には、「これ、何の木？」というQ&Aパネルが設置されており、遊びながら木の名前を覚える「グリーンアドベンチャー」も体験できます。



「ヒアシンスハウス」ってなに？

別所沼のほとりに、ワンルームしかない不思議な家が…!？これは昭和初期の詩人であり建築家でもあった立原道造（たてはらみちぞう）が芸術仲間と過ごす別荘として設計したものです。道造は、たった5坪の木造平屋に、好きな花の名前をとって「ヒアシンスハウス」と名づけ、その完成を夢見ていましたが、肺炎のため、24歳の若さで亡くなりました。

長い年月が流れ、2004年11月、当時の設計図が現存していることを知った建築家・永峰富一さんから市民が中心となって「ヒアシンスハウスをつくる会」を結成し、全国の850余の方々から募金をいただき、さいたま市との協働によって、建設を実現しました。

かつて「別所沼文化」と呼ばれ、多くの文学者や画家から愛されたこの土地に、若き詩人の夢を引き継いで、さいたま市民の文化活動の場が誕生したのです。ヒアシンスハウスに関するお問い合わせ先は、「ヒアシンスハウスをつくる会」事務局、北原立木さんまで（TEL:863-4474）。

【別所沼公園の概要】

住所：さいたま市南区別所4丁目地内

電話：836-5678（さいたま市公園緑地協会）

交通アクセス：JR埼京線中浦和駅から徒歩5分

施設：児童広場、多目的広場、芝山、別所沼会館、ジョギングコース、無料駐車場（20台）



晴れたら行こう！

別所沼公園

（べっしょぬまこうえん）空に向かってまっすぐ伸びたメタセコイヤの並木が印象的な別所沼公園。およそ100万年前に谷から湧き出した水がたまってできたといわれる別所沼が中心にあります。